

国立天文台収蔵品データベース									
レプソルド子午儀		解説・備考	我が国の近代天文学黎明期に海軍観象台の観測機器としてドイツから輸入され、その後東京天文台（現在の国立天文台）において用いられた有効口径13.5センチメートルの大型の子午儀である。本子午儀は、ハンブルク所在の天体観測機器製造会社、A・レプソルド・ウント・ゾーネ社の製品である。明治14年(1881)7月に我が国に到着し、翌15年4月に設置された。稼働後は、この子午儀の観測結果をもって麻布飯倉の天文経度の基準値が求められ、各地の経度の算定に利用された。明治25年(1892)にはこの子午儀による観測値、つまり本子午儀の中心が日本の天文経緯度の原点と定められた。			解説・備考引用	国立天文台ニュース2012年4月号 国立天文台アーカイブ・カタログ 第01回、アーカイブ新聞 709号、556号、500号、495号、401号、140号、55号、40号、文化庁国指定文化財等データベース	大分類 中分類 小分類 様式 材料	望遠鏡 屈折望遠鏡 子午儀 真鍮、鉄、木
	英語名 Repsold Transit Instrument			制作者 A・レプソルト・ウント・ゼーネ社	制作時期 1880年	制作場所 ハンブルク(ドイツ)	印章・銘記 A.REPSOLD & SOHNE HAMBURG	指定種別 指定番号 指定日付	重要文化財(歴史資料) 163 2011年06月27日
				識別子 NAOJMIT0000129	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
子午面視準器(北方方向用)		解説・備考	子午儀は非常に特殊な望遠鏡である。この望遠鏡は子午線方向、すなわち南北にしか動かない。この望遠鏡は、子午線上を通過する天体の時刻を精密に測定することにより、その地点の経度を求めたり、天体の赤経を求める。そのために、望遠鏡自体がきちんと子午線上を向いて動いているか、天頂に向けた時、本当の天頂を向いているかなど、望遠鏡の性能がわかってい必要がある。そこで望遠鏡を真北に向けた時、本当の真北に向いていることを確かめるための視準望遠鏡がこの視準器である。この視準器には水準器がついており、高度ゼロ(0度)を確認できるようにになっている。			解説・備考引用	子午儀資料館解説	大分類 中分類 小分類 様式 材料	
	英語名			制作者	制作時期	制作場所	印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000130	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
レプソルド子午儀用東西反転機構		解説・備考	子午儀は非常に特殊な望遠鏡で、望遠鏡を真下に向けて、水銀面を見ることによって、望遠鏡が地球の重力方向に向いていること、すなわち反対に天頂を向いた時、本当の天頂に向いていることを確かめることが必要である。また、本当に南北を向いているかを南北の視準望遠鏡を使って確かめる必要がある。このために、この反転機構を使って真の天頂、南北を向くよう調整された。			解説・備考引用	子午儀資料館解説	大分類 中分類 小分類 様式 材料	
	英語名			制作者	制作時期	制作場所	印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000133	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
レプソルド子午儀用水銀盤		解説・備考	2007年に発見された。レプソルド子午儀の不動点の下の床にはハッチがあり、水銀盤はその下に置かれていたと思われる。子午儀は非常に特殊な望遠鏡で、望遠鏡自体がきちんと子午線上を向いて動いているか、天頂に向けた時、本当の天頂を向いているかなど、望遠鏡の性能がわかってい必要がある。そこで望遠鏡を真下に向けて、水銀面を見ることによって、望遠鏡が地球の重力方向に向いていること、すなわち反対に天頂を向いた時、本当の天頂に向いていることを確かめるために、この水銀盤が使われた。			解説・備考引用	アーカイブ新聞第731号、子午儀資料館解説	大分類 中分類 小分類 様式 材料	水銀盤
	英語名			制作者	制作時期	制作場所	印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000136	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
ゴーチェ子午環用水銀盤		解説・備考	2007年、レプソルド子午儀室を探検調査した際に発見された。ゴーチェ子午環用水銀盤はゴーチェ子午環観測室に敷かれたレール上を走るための車輪が付いている。子午儀は非常に特殊な望遠鏡で、望遠鏡自体がきちんと子午線上を向いて動いているか、天頂に向けた時、本当の天頂を向いているかなど、望遠鏡の性能がわかってい必要がある。そこで望遠鏡を真下に向けて、水銀面を見ることによって、望遠鏡が地球の重力方向に向いていること、すなわち反対に天頂を向いた時、本当の天頂に向いていることを確かめるために、この水銀盤が使われた。			解説・備考引用	アーカイブ新聞第730号、731号、子午儀資料館解説	大分類 中分類 小分類 様式 材料	水銀盤 アマルガム
	英語名			制作者	制作時期	制作場所	印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000137	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
90mmバンベルヒ子午儀		解説・備考	東北地方、伊勢湾沿岸付近、樺太本島の天文経緯度観測(1938年から1940年)に使われた子午儀である。東京大学百年史部局史Ⅲ、東京天文台の項によると、東京天文台の三鷹への移転を機に、口径90mmバンベルヒ子午儀2基とリーフラー天文振り子時計が購入され、バンベルヒ子午儀は連合子午儀室、リーフラー天文時計は本館地下室に納められたとある。連合子午儀は4基あったから、その後2基が増強され、連合子午儀室で経度観測に使用され、PZTに置き換わるまで時刻の決定に用いられてきた。			解説・備考引用	国立天文台ニュース2012年11月号、アーカイブ新聞第176号	大分類 中分類 小分類 様式 材料	子午儀 真鍮、鉄、ガラス
	英語名 90mm Bamberg Transit Telescope			制作者 カール・バンベルヒ社	制作時期 不明	制作場所 ドイツ(ベルリン)	印章・銘記 ASKANIA WERKE A.G.	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000141	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				
90mmバンベルヒ子午儀		解説・備考	恒星の赤経と観測点の経度が分かっている時に、恒星の子午線通過時刻を観測する機械である。子午面内で回転する望遠鏡をのぞいて、通過時刻を測定した。もっとも高性能な写真天頂筒や、アストロラーベなどが出現する1952年(昭和27年)ころまで使われていたようである。			解説・備考引用	子午儀資料館解説	大分類 中分類 小分類 様式 材料	子午儀 真鍮、鉄、ガラス
	英語名 90mm Bamberg Transit Telescope			制作者 カール・バンベルヒ社	制作時期 不明	制作場所 ドイツ	印章・銘記	指定種別 指定番号 指定日付	
				識別子 NAOJMIT0000142	収蔵場所 レプソルド子午儀室(三鷹本部)				

[illegible]